

## 日本・ミクロネシア連邦首脳会談

平成 20 年 11 月 10 日

11 月 10 日(月曜日)午後 4 時から約 30 分間、麻生内閣総理大臣は、モリ・ミクロネシア連邦大統領と首脳会談を官邸にて行ったところ、概要以下のとおり。

### 1.二国間関係

麻生総理大臣より、本年は、日本とミクロネシア連邦との外交関係 20 周年であり、この記念すべき年に貴大統領の訪日を歓迎する、また、初めての常駐大使を我が国より派遣した、更に、森元総理が特派大使として 9 月にミクロネシア連邦を訪問した際受けた配慮に感謝する、旨発言。これに対しモリ大統領より、森元総理の特派大使としての派遣、我が国の常駐大使の派遣等につき謝意を表し、今回の訪日目的である曾祖父の故郷高知県への訪問につき発言があった。また、麻生総理大臣より、日本遺族会による慰霊友好親善事業等実施への同国の理解、特段の配慮に感謝の意を伝えた。

### 2.第 5 回太平洋・島サミット

麻生総理大臣より、我が国は明年 5 月、太平洋島嶼国への更なる協力強化のため、北海道トマムにて第 5 回太平洋・島サミットを開催することを決定したので、是非ご出席いただきたい旨述べたところ、モリ大統領より、同サミットに喜んで参加し、貴国と島嶼国共通の関心事項につき議論を行いたい旨述べた。

### 3.経済協力

モリ大統領より、日本がミクロネシア連邦との外交関係樹立以前より行ってきた様々な経済支援につき謝意を表したのに対し、麻生総理より、先日の森元総理のミクロネシア連邦訪問の際、貴大統領より、燃料代高騰等によりミクロネシア連邦が直面する経済危機に対応するための支援につき要望があったと承知しているが、我が国政府として本件に関する貴国の支援につき前向きに対応すべく調整している旨発言を行った。これに対しモリ大統領より、日本政府の検討に感謝する旨発言があった。

### 4.国連安保理改革等

モリ大統領より、ミクロネシア連邦として日本の常任理事国入りにつき支持しており、国連総会一般討論演説において昨年同様発言した旨述べ、麻生総理大臣より、右に感謝しつつ、先般の安保理非常任理事国選挙において、ミクロネシア連邦からの支持を得て当選したことについても謝辞を述べ、明年 1 月から非常任理事国として、国際社会の平和と安全の維持に一層貢献していきたい旨述べた。

## 中曽根外務大臣とモリ・ミクロネシア連邦大統領との昼食会

平成 20 年 11 月 10 日



11 月 10 日(月曜日)午後 1 時 30 分から約 1 時間、中曽根大臣は、飯倉公館において、モリ・ミクロネシア連邦大統領他との昼食会において意見交換を行ったところ、概要以下のとおり。

### 1. 二国間関係全般

中曽根大臣とモリ大統領は、外交関係樹立 20 周年という記念すべき年に、二国間関係の重要性を再認識し、より一層友好関係強化に努めていくことで一致した。また、モリ大統領は、我が国が両国外交関係樹立前から行ってきた様々な分野における資金協力及び技術協力に対する感謝の意を述べ、就中教育分野等への青年海外協力隊員派遣は同国で高く評価されている旨述べた。

### 2. [第 5 回太平洋・島サミット](#)

中曽根大臣より、我が国は明年 5 月、太平洋島嶼国への更なる協力強化のため、北海道トマムにて第 5 回太平洋・島サミットを開催することを決定したので、是非ご出席いただきたい旨述べたところ、モリ大統領より、同サミットへの参加を楽しみにしている旨述べた。

### 3. 慰霊友好親善事業及び戦没者遺骨収集事業

中曽根大臣より、ミクロネシア連邦をはじめ、太平洋島嶼国の多くの国では、戦没者に対する慰霊友好親善事業や遺骨収集事業が実施されており、引き続き協力をお願いしたい旨述べ、モリ大統領より、本件についてミクロネシア連邦としても引き続き協力していきたい旨応答。

### 4. 我が国漁船の拿捕

中曽根大臣より、ミクロネシア連邦当局により拿捕されている我が国マグロ漁船「大幸丸(タイコウマル)」に関し、邦人保護の観点から関心を有しており、事態の迅速な解決に向け、ミクロネシア側の協力を得たい旨述べたところ、モリ大統領より、本国に戻り次第現状を確認の上、出来る限り協力したい旨述べた。

以上